

第2回尼崎市一般廃棄物処理基本計画策定部会

第2回尼崎市一般廃棄物処理基本計画策定部会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、配布資料等に対する疑義・意見等について、書面による提出を受けることとしました。

提出のありました疑義・意見等に対する本市の対応・考え方を整理し取りまとめました。

	疑義・意見等	対応・考え方
1	資料1 P.1～P.2について 市民の意見聴取の機会として市民ワークショップを行っているが、参加者数が少ないことについてはどう考えているか。	市民ワークショップは「みんなのサマーセミナー2019」において約300講座の中のひとつとして実施され、来場した市民が自由に参加を選択するシステムにおいて実施されました。そのため、参加者については特にごみ問題に関心のある少数の市民という偏りが生じている可能性はあると考えておりますが、特に熱心に取り組まれている方の意見として、市民アンケート結果と共に、計画策定において参考にしたいと考えております。
2	資料1 P.3について 特に具体的な活動をしていないさわやか指導員がおり、この制度が機能しているか疑問である。	さわやか指導員は、地域から推薦していただいた方に委嘱している背景もあり、それぞれの指導員の活動可能な時間や範囲は様々であると考えております。そうしたことから、その活動内容についてもばらつきが生じると考えております。現状、地域のごみ出しマナー等に関する啓発チラシの回覧や定期的な清掃活動といった地道な活動をされている指導員もおられることも踏まえ、今年度からはボランティア制度へと改め、活動される方のすそ野を広げるよう取り組んでいるところです。
3	資料1 P.4について 事業系ごみの収集運搬や処分に関する契約を月極契約から従量制にすることで減量が進むのではないか。	排出量に応じて処理料金を負担する従量制は、処理にかかる費用負担を減らそうとするインセンティブが働き、ごみの減量に繋がることが期待されます。一方で、ほとんどが月極契約となっている現在の契約方法を従量制とするには、一般廃棄物収集運搬業許可業者による計量器の導入や一般廃棄物収集運搬業許可業者と排出事業者の間で契約の変更が必要などといった課題も多くあります。今後、施策の減量効果と課題を踏まえながら、従量制の導入を含め、事業系ごみの減量施策を検討してまいります。
4	資料1 P.6について(図1) 市民アンケートの結果を見ると、ごみ減量・リサイクルに対して関心がある方が多いように思われるが、無回答の人が多く感じる。生活ごみに関心を持ってもらうようにすればよいのではないか。	家庭ごみのさらなる減量を進めるにあたっては、市民一人ひとりのごみに対する関心を高め、行動に繋がることが不可欠であると認識しております。広く市民に分かりやすく伝わる情報発信など、より効果的な啓発の手法について検討してまいります。
5	資料2 P.4について ごみの発生抑制としては、食品廃棄物(生ごみ)とプラスチックに重点を置いてはどうか。	ごみの減量の推進にあたっては、まずはごみにしない発生抑制を最優先として取組を進めてまいります。現在、燃やすごみとして排出されているごみのう

		ち、計画的に消費することでごみにしないことが可能な食品ロスや、使い捨て製品等の使用を控えることで削減が可能なプラスチックに重点を置き、発生抑制の取組を進めてまいります。
6	<p>資料 2 P.4 について</p> <p>生鮮食品ではなく、加工食品・半加工食品を購入する人が多くなってきているように思うので、食品廃棄物(生ごみ)の排出量は減少するのではないか。</p>	<p>燃やすごみに含まれる食品ロスの組成分析結果をみると、パンや菓子、インスタント食品など、加工食品が比較的多く排出されていますが、生鮮食品等の食べ残しも一定量排出されています。</p> <p>また、市民アンケートでは、食品ロスの発生要因として「必要以上に買いすぎてしまい、使い切れず捨ててしまうことがある」や「つい多めに調理してしまい食べきれず、捨ててしまうことがある」といった回答が多く挙げられており、さらに年齢層や世帯構成によって、発生する食品ロスの種類や要因が異なる結果となっていました。</p> <p>そのため、食品ロスの削減に向けて、その種類や発生要因に対応した、きめ細やかな対策を進めてまいります。</p>
7	<p>資料 2 P.4 について</p> <p>ごみ袋の中が見えないよう新聞紙でごみを覆っている家庭もある。紙ごみを減らすためには正しい分別方法等を広める必要があるのではないか。</p>	<p>ごみの分別の徹底や収集作業中の事故防止の観点から、中身の見える指定袋を導入していますが、カラス被害の防止や、人目にふれられたくないごみを隠すため、新聞紙でごみを覆っている家庭も見受けられます。</p> <p>カラス被害の防止については防鳥ネットの使用やさわやか推進員と連携した地域での対策、人目にふれられたくないごみについてはビニール袋等に包んで入れるなど、新聞紙で覆わなくてもできる工夫について、機会を捉えて啓発してまいります。</p>
8	<p>資料 2 P.4 について</p> <p>ペットボトルについての使用自体を止めることは難しいと考えられるので、購入店舗に返却するという対策を講じてはどうか。</p>	<p>ペットボトルについては、マイボトルの利用促進などリデュースの取組を進めて削減を図るとともに、ごみとなったものについては、質の高いリサイクルを行う必要があると考えております。</p> <p>今後は、ペットボトルの使用抑制に向け、市民・事業者への啓発を進めるとともに、質の高いリサイクルの推進に向けて、販売事業者と連携した回収を含め、効率的な収集方法の検討を進めてまいります。</p>
9	<p>資料 2 P.4 について</p> <p>プラスチックごみはカロリーがあるため、カロリーの少ない燃やすごみの助燃作用があるものと考えられる。仮に、プラスチックごみが減少し、燃焼カロリーが減ったことで、ごみ焼却に必要な液化天然ガス等の燃料が増加するのでは二酸化炭素排出量の削減対策と矛盾が生じる可能性があるため、ごみ処理全体での環境負荷を削減するという視点が必要ではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、ごみ処理全体における温室効果ガス排出等の環境負荷を検討し、削減に向けた取組を行う必要があると考えております。</p>
10	<p>資料 2 P.5 について</p> <p>ごみ出し・回収やリユースの推進等に限らず</p>	<p>令和 2 年度からは、ボランティア制度へ移行し、地域や地球環境のために無理なくできる活動へと転換</p>

<p>様々な取り組みにさわやか指導員を活用してはどうか。</p>	<p>することにより市民参加のすそ野の拡大を目指しております。その際には、様々な活動を例示し、市民の参加を呼び掛けてまいります。</p>
----------------------------------	--